

検査内容を詳しく解説!

早期発見につなげる大腸がんの検査

大腸がん検診をきちんと受けることで、がんの早期発見、早期治療につながります。正確な検査結果を得るためにも、採便は説明書の指示に従い、正しく行いましょう。

便潜血検査

現在の主流である
2日法の検査

やり方 検査の一例

- 容器からキャップを引き抜き、採便棒で便の表面を満遍なくこする(棒の先端のみぞが埋まる程度)。
- 容器に採便棒を「パチン」と音がするまでしっかりと差し込み、冷暗所に保管する。1回差し込んだら抜かないこと。
- 2日目(採便の間隔はなるべく短く)、もう1つのキットも同様に採便し、2本提出する。



便潜血検査で使われる採便棒の一例

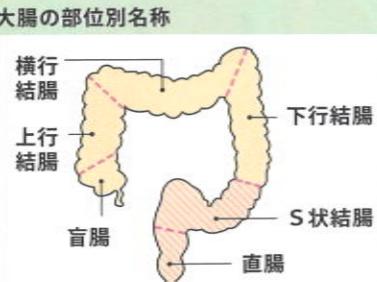


便秘や下痢で採取できないとき、月経時は日を改める。後日に郵送できる場合もあるので問い合わせてみましょう。

*詳しくは自治体などに相談を。

COLUMN 大腸がんのできやすい部位

大腸は、長さ約1.5mで、大きく右図のように分けられます。このどこかにできるのが大腸がんです。とくに大腸がんが多く見つかるのはS状結腸と直腸で、この2つで大腸がん全体の約7割を占めています。



いはわずかな負担を受けられます。便潜血検査で陽性となつた場合、精密検査として一般的に行われるのが、大腸内視鏡検査です。がんを早期に発見し、治療できれば、完治しやすいのはもちろん、からだに負担の少ない治療法を選択できます。40歳になつたら、大腸がん検診を受けましよう。

大腸がん検診の対策型検診

市区町村が住民を対象に行っている大腸がん検診

対象 40歳以上

頻度 年に1回

検査内容 問診と便潜血検査

メタボ健診
✓がん検診
フォローアップガイド

便通はとても快調だけど大腸がん検診を受けるべき?

便秘知らずのAさん(45歳・女性)。大腸がん検診のお知らせが来るけど、「ちょっと恥ずかしいし、便通もいいし大丈夫よね」と受けていないようです。



女性のがんで死亡率1位
早期発見で治りやすい

近年、日本では、食生活の欧米化や肥満の増加を背景に、大腸がんが増えています。男女合わせた罹患数(がんになった患者数)はがんの中でも最多で、女性では死亡率のトップです。40代などの比較的若い世代からふえているのも最近の傾向です。同時に大腸がんは、治りやすいがんになります。早期に見つけて適切な治療を受ければ、完治することも可能です。

監修 原田英明先生
東京千住・胃と大腸の消化器内視鏡クリニック 理事長